

西田雅昭
の

新

Visual Basic!

西田 雅昭
NISHIDA, Masaaki

基本からの
業務アプリケーション構築技法

第 3 回

画面の作成に役立つ 機能



はじめに

今回は、変数、データ型、数値演算など、少しややこしい話ばかりでした。今回は、少し趣向を変えて、Visual Basic 2005 (以下VB2005) のビジュアルなテクニックを楽しみましょう。VB 2005の親切さを体験することができますから。

レベル >>> Level

1 2 3 4 5

言語 >>> Language

Visual Basic

ツール >>> Tool

Visual Studio 2005 Professional

参考

本連載ではVisual Studio 2005 Professionalを使用していますが、解説内容は特に明記しない限り、Visual Basic 2005 Expressでも利用できます。Express Editionをお持ちの方もぜひ挑戦してみてください。



コントロールの配置

まずは適当なプロジェクトを「新規作成」し、フォームにコントロールを配置してみましょう。

フォームにコントロールを配置する

には、ツールボックスのコントロールアイコンをダブルクリックする、またはフォームにドラッグ&ドロップするという方法がありますね。

西田流は少し違います。ツールボックスから「Button」のアイコンをクリックし、マウスボタンを押したままフォームの上に持っていきます。すると、マウスポインタが奇妙な形になっています (図1)。

マウスポインタをフォーム右隅に移動すると、マウスポインタの右側と下側に青い線が出ます。この位置で、一瞬マウスポインタが止まるような感じがしますので、すぐわかります。ここでマウスボタンを離すと、ボタンが現われます (図2)。フォームの右側や下側との一定の距離をとって配置してくれるのです。

同じようにツールボックスの「Button」アイコンを、先ほどの「Button1」の横に持っていくと、ボタンの上端の

図1: 「Button」をフォーム上にドラッグ

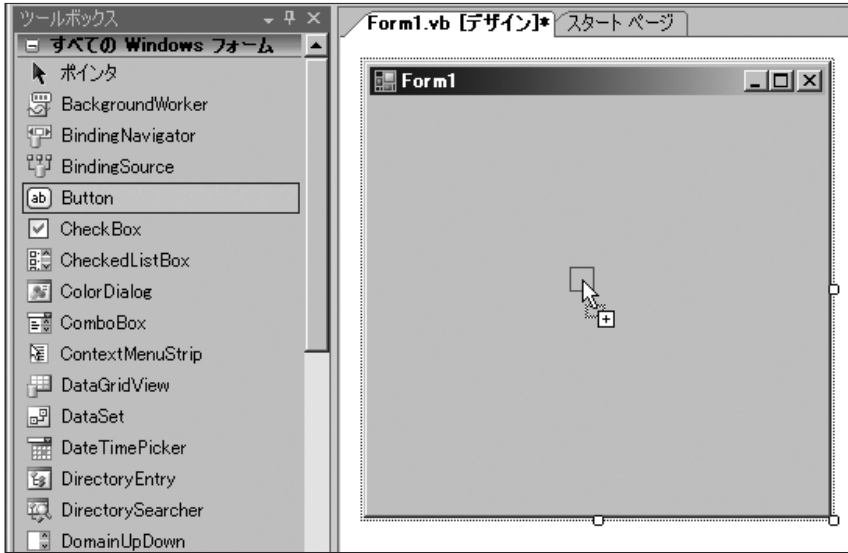


図2: ボタンをフォーム右隅にドラッグ&ドロップ

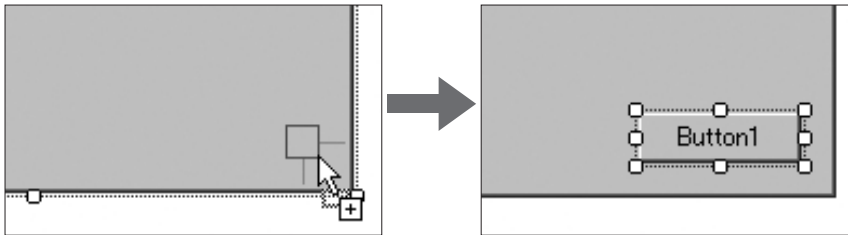


図3: ボタンを整列して配置

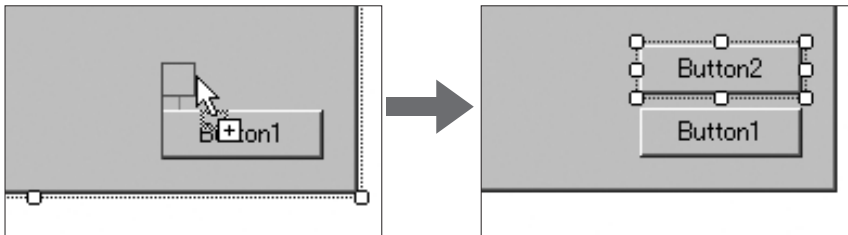
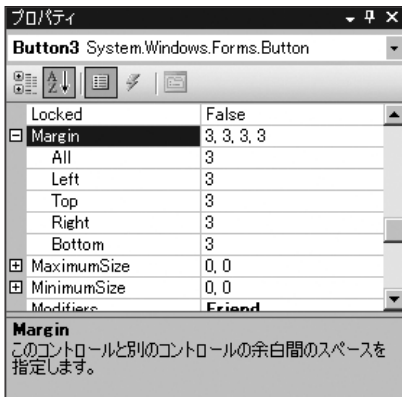


図4: ボタンの「Margin」プロパティ



位置が一致したところで、青い線が出ます。

マウスポインタをそのまま「Button1」の上部に持っていくと、今度はボタンの左端に青い線が出ます。さらに少し下げると、「Button1」との間にも青い線が出ます。ここでマウスポインタを離すと、2つのボタンが美しく並びます(図3)。

システムは、コントロールとフォームの端との間隔だけでなく、コントロール同士の間隔や、コントロールの整列まで考えてくれるのです。

この青い線を「スナップ線」と呼びます。

スナップ線の秘密

スナップ線はとても便利な機能で、[書式]メニューのお世話になる回数が激減しました。

しかし、天邪鬼な西田雅昭としては、スナップ線で配置するときの間隔を変えたくまりました。さっそくやってみましょう。

フォームを選択した状態で、ツールボックスの「Button」アイコンをダブルクリックすると、フォームの左上に「Button3」が現われます。

このボタンの「Margin」プロパティの左にある「+」ボタンをクリックしてみましょう。ALL、Left、Top、Right、Bottomという5つの内容がすべて「3」になっていますね(図4)。これが、ボタンの周りがある空白の長さなのです。

「All」の値を「10」にすると残りの4つもすべて10に変わります。この「Button3」ボタンを、フォームの左下に移動してみましょう。さっきより離れた位置でスナップ線が現われました(図5)。

「Button3」ボタンを選択し、[Ctrl]+[C]キーと[Ctrl]+[V]キーでコピー&ペーストすると「Button4」が現われます。このボタンの「Margin」プロパティも10になっています。